





## 【共通問題】

第1問 次の1～4の問いに答えなさい。

1 次の(1)～(4)の傍線部の漢字と同じ漢字を含むものを、あとのa～eの中からそれぞれ一つ選びなさい。

(1) お正月に家族で神社にサンケイした。 ア

- a 群馬県では江戸時代からさかんにヨウサンが行われていた。
- b 依頼をうけたときにダサンが働いた。
- c アンケートを見ると、否定的な意見がサンケンされる。
- d 事故現場はセイサンを極めた。
- e 先行研究をサンコウにして論文を書く。

(2) その展覧会は県と市がキョウサイした。 イ

- a ショサイで国語の調べ物をする。
- b ボンサイの松を大事に育てる。
- c 小説の原稿を電話でサイソクする。
- d 家庭サイエンでトマトを育てる。
- e 自動車ローンを全額ヘンサイした。

(3) 家計をイジするため働く。 ウ

- a データにサクイの跡が見られる。
- b 交渉の権限を彼にイニンする。
- c 彼女の理論は入念な調査にイキョしている。
- d この食品には食物センイが多く含まれている。
- e 国体でキョウイ的な記録をたたき出した。

(4) 正装してイギを直す。 エ

- a 社会のギゼンと戦う。
- b 決定にコウギをする。
- c 虫が枯れ葉にギタイする。
- d 小説をギキョク化する。
- e 結婚式のシユウギを渡す。

2 次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 熟語の読みとして誤っているものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

オ

a 漸次 さんじ                      b 鞭撻 べんたつ                      c 領袖 りょうしゅう                      d 補填 ほてん                      e 帰趨 きすう

(2) 「釈」という漢字を構成する部首「采」の名称として適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

カ

a すきへん  
b のごめへん  
c いのこへん  
d のぎへん  
e むじなへん

3 次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 四字熟語とその意味として適切でないものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

キ

a 韋編三絶 ↓ 書物の綴じ目がとれるくらい、何度も読書すること。  
b 夏炉冬扇 ↓ 夏の火鉢、冬の扇子のように、無用のもののこと。  
c 行雲流水 ↓ 心の平静を乱すものがなく、静かな心境でいること。  
d 一陽来復 ↓ 悪いことが続いたあと、幸運に向かうこと。  
e 岡目八目 ↓ 第三者のほうが、当事者より事の真相がよくわかること。

(2) 慣用句の使い方として適切でないものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

ク

a 今年の突然の大雪は、多くの市民の足を奪った。  
b この仕事量は新人の彼ではきつと手に余るだろう。  
c 彼女は虫も殺さないような顔つきで、平然ときついことを言う。  
d あのコンビニの店員は、いつも木で鼻をくくったような対応をする。  
e この道は曲がりくねっているので、ドライバーは気が置けない。

4 次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 次の各文の傍線部「でも」について、類推の用法で使われている副助詞を、次の

a～eの中から一つ選びなさい。

ケ

- a 彼は選手だがコーチでもある。
- b 時間があるなら、コーヒーでも飲みましょう。
- c 何回呼んでも返事がない。
- d その知識なら、子どもでも知っている。
- e 特急に乗る前に、新聞でも買おうとしよう。

(2) 次の各文の傍線部「だ」について、断定の用法で使われている助動詞を、次のa～

eの中から一つ選びなさい。

コ

- a 今日とはとてもいい天気だ。
- b 昨日はたくさんお茶を飲んだ。
- c 新しく買った冷蔵庫はとても便利だ。
- d 一生懸命走った。だが、電車に乗り遅れた。
- e 昨日この店は大繁盛だったようだ。

第2問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(戸谷洋志『未来倫理』による)

1 次の文は、文章中の【A】～【E】のどこに置くのがよいか。最も適切な箇所を、あとのa～eの中から一つ選びなさい。

つまり、自然の観察そのものは、あとでそれを技術に使うかどうかとは無関係に行うことができる。自然の観察にとって、その成果を技術に使うか否か、ということは、あくまでも「おまけ」に過ぎない。

a 【A】    b 【B】    c 【C】    d 【D】    e 【E】

2 傍線部①「収穫」と同じ組み立てで構成されている熟語を、次のa～eの中から一つ選びなさい。

a 定義  
b 非常  
c 浮力  
d 変革  
e 奥地

3 傍線部②「凌駕する」の意味として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

ウ

- a 上回る
- b 抑圧する
- c 見くだす
- d 覆いつくす
- e 打ちのめす

4 傍線部③「こうした技術観」とあるが、その内容として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

エ

- a 技術とは伝統的な哲学におけるとても大きな問いである、という考え方。
- b ある目的を達成するための手段を製作する営みこそが技術である、という考え方。
- c 自然現象を人工的に模倣することで技術をうまく行使できる、という考え方。
- d 自然をしっかりと観察しその本質を理解するためにも技術が必要だ、という考え方。
- e 自然は人間よりも優れており技術を確実に信頼できる存在である、という考え方。

5 文章中の④に当てはまる言葉として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

オ

- a 技術
- b 実験
- c 観察
- d 理解
- e 模倣



6 文章中の⑤に当てはまる言葉として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

力

- a やはり
- b さらに
- c ならば
- d むしろ
- e それも

7 傍線部⑥『技術ファースト』な考え方』の説明として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

キ

- a 技術を用いて自然に働きかけることによって、自然を理解することができるようになる、という考え方。
- b 自然とは異なった環境を実現できる技術こそ、人間にとって自然そのものよりも役に立つ、という考え方。
- c 自然の本質に迫るためには、自然に働きかけることより技術を使用することの方が有効である、という考え方。
- d 人間にとって必要なのは、自然を自然のままにせず、技術によって自然を管理することである、という考え方。
- e 自然が人間よりも優れているという考え方を改め、人間が技術を用いて自然を支配するべきである、という考え方。

8 傍線部⑦『自然の支配』を可能と見なすもの』とあるが、これに当てはまらないものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

ク

- a 人間が、自然に対して積極的に働きかけ、その結果を検証すること。
- b 人間が、自然には存在しない人工的な環境を技術的に構築すること。
- c 人間が自然を観察し、人間の知識にとって不可欠の契機を得ること。
- d 人間が技術によって自然を再現することで、自然を解明できること。
- e 人間が実験を行う場合に、自然をコントロールしているということ。

9 本文の論の展開や表現上の特徴について説明したものとして最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

ケ

- a 歴史上、価値観の変転がたびたびあったことを具体的に示し、その上でさらに、今後起こりうる変化についても、理解を促している。
- b 身近な例から発展して次第に抽象的な思考へと深めていき、予想される異論への反論も盛り込みながら、独自の結論へと導いている。
- c 自問自答を繰り返し返しながら論を深めていき、それぞれの疑問を解決した後、さらに生じた新たな問題点を、最後に問いかけている。
- d 冒頭に示された点に限らず、他の事柄においても同じ傾向が表れることを暗示し、現代社会に数多くある諸問題への意識を高めさせている。
- e 時代の変遷に伴って考え方に大きな転換があったことを示すために、それぞれの考え方について例を挙げて具体的に説明している。

10 本文の内容に合致するものとして最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

コ

- a アリストテレスは、より確実に自然を模倣し自然の摂理に従うためには、よりよい技術を考え実行することが必要である、と考えた。
- b レオナルド・ダ・ヴィンチは、空飛ぶ機械を構想するにあたって、自然において空を飛んでいる鳥を観察するための技術的機構を考案することから始めた。
- c フランシス・ベーコンは、技術について、まず自然を観察し、次にそれを技術に落とし込んでいく、という順番になると考えた。
- d ガリレオ・ガリレイは、自然法則を解明するために、あえて自然なものではない装置を設置し操作する、という方法を使った。
- e 人間が自然を支配するようになったということは、人間があらゆる現象を操作し管理することができるという発想をもたらした。

第3問 次の文章は『十訓抄』中の一節である。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

(『十訓抄』による)

(注) 六条修理大夫顕季……藤原顕季。播磨・美作など諸国の国司を歴任、蓄財。白河院の院別当として活躍。

館の三郎義光……源義光。平安時代後期の武将で、新羅三郎とも称した。源義家の弟。

院……白河院。白河上皇のこと。

1 傍線部①「左右なく」の意味として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

**ア**

- a 非常に厳しい態度で
- b 双方からよく話を聞いて
- c 迷うこともなく、たやすく
- d 事柄をもう一度整理して
- e 道理を丁寧の説明して

2 傍線部②「とみにこときれざりければ」とは、具体的に何がどのような状態であることを指しているのか。最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

イ

- a 顕季の武力では義光に対抗するのが難しかったこと。
- b 院の裁定がすぐには下らなかつたこと。
- c 顕季と義光の話し合いがなかなか始まらなかつたこと。
- d 証拠になる証文がすぐには見つからなかつたこと。
- e 顕季がそもそも義光と話したいと思っていなかつたこと。

3 傍線部③「かしこまり給へりける」を品詞分解したものととして正しいものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

ウ

- a ラ行変格活用動詞の連用形＋謙讓の補助動詞の已然形＋過去の助動詞「けり」の連体形
- b 名詞＋四段活用動詞の已然形＋強意の助動詞「り」の連用形＋過去の助動詞「けり」の連体形
- c ラ行変格活用動詞の連用形＋下二段活用動詞の連用形＋過去の助動詞「けり」の連体形
- d ラ行四段活用動詞の連用形＋尊敬の補助動詞の已然形＋完了の助動詞「り」の連用形＋過去の助動詞「けり」の連体形
- e 名詞＋下二段活用動詞の連用形＋過去の助動詞「けり」の連体形

4 傍線部④「いはれたれども」とは、どのような内容に関わる誰の評価なのか。その説明として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

エ

- a 義光と顕季の両方の立場に対する院の評価
- b 二人の争いを世間はどう見ているのかという作者の評価
- c 義光が訴えている不満は理解できるといふ院の評価
- d 顕季が東国の莊園について訴えた内容に関わる院の評価
- e 武士はどのような立場でものを考えるのかという作者の評価

5 傍線部⑤「かれ」が指し示す内容として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

オ

- a 個人的に抱く不満
- b 義光
- c 争われている訴訟
- d 顕季
- e 東国の荘園

6 傍線部⑥「とばかりものも申さで候ひければ」とは誰のどのような様子を描写したのか。その説明として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

カ

- a 院からかけられた言葉が余りにも思いがけないものであったため、顕季が何も言えなかった様子。
- b 院から思いがけないお褒めの言葉をいただき、感激のあまりに義光が言葉に詰まる様子。
- c 今回の訴訟の内容の是非がはっきりとしているのに、院の言葉が一方的に過ぎるため院の近侍たちが驚いている様子。
- d 院からかけられた言葉が余りにも理不尽で一方的なものであったため、顕季が不満をじっと堪えている様子。
- e 争われている訴訟の決着がどうなるか分からないため、義光の家臣が焦って気をもんでいる様子。

7 文章中の A ～ C に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

キ

- |  |   |   |    |   |    |   |    |
|--|---|---|----|---|----|---|----|
|  | a | A | 顕季 | B | 顕季 | C | 義光 |
|  | b | A | 義光 | B | 義光 | C | 顕季 |
|  | c | A | 顕季 | B | 義光 | C | 顕季 |
|  | d | A | 義光 | B | 顕季 | C | 義光 |
|  | e | A | 顕季 | B | 顕季 | C | 顕季 |

8 傍線部⑦「やすからず思はむままに」、傍線部⑨「これを思ふに」の、動作主は誰か。その組み合わせとして最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

ク

- |   |      |      |
|---|------|------|
| a | ⑦ 院  | ⑨ 顕季 |
| b | ⑦ 院  | ⑨ 義光 |
| c | ⑦ 義光 | ⑨ 顕季 |
| d | ⑦ 顕季 | ⑨ 義光 |
| e | ⑦ 義光 | ⑨ 院  |

9 傍線部⑧「おのれがため」の「おのれ」が指しているものとして最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

ケ

- a 義光の従者
- b 顕季
- c 世間の人々
- d 義光
- e 院

10 本文の内容に合致するものとして最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

コ

- a 院が義光との東国の所領争いを公平に裁いてくれたので、顕季は納得し、一層、院に忠誠を尽くすようになった。
- b 院がなかなか判断を下さなかつたので、顕季はしびれを切らしたが、院が義光との仲を取り持ってくれたので、問題を解決することができた。
- c 顕季は、武門の誉れ高い義光を相手に苦慮したものの、院の配慮によって、都での武力衝突を避けられたため、安堵することができた。
- d 顕季は、義光を相手に所領の件で訴訟沙汰になったが、院が苦慮する様子を見て自ら身を引くことで、問題の解決を図った。
- e 顕季は、理不尽な裁定を下す院の真意をはかりかねたが、その裏に院の深い洞察があったことに驚き、その理由を聞いて納得した。

第4問 次の漢文を読んで、あとの問いに答えなさい。ただし、設問の都合上、文字を改め、送り仮名・返り点を省いた箇所がある。

(『韓非子』による)

晉公子重耳||晉の文公のこと。左伝には、重耳の体は一枚あばらであったので、曹君は

珍しがり、重耳が湯あみをする時に、強いて見たとあり、また呂氏春秋に

は、曹君は公子に肌脱ぎになって池の魚を捕らせ、その身体を見たとある。

曹君||曹の君主。

釐負羈||曹君の家臣。

叔瞻||曹君の家臣。

袒裼||肌脱ぎになること。

餐||食事。

璧||玉の平円形で孔のあるもの。

1 傍線部①「晉公子重耳」を指すものとして最も適切なものを、文章中の二重傍線部 a～e の中から一つ選びなさい。 ア

2 傍線部②「弗」、③「從」の読みとして最も適切なものを、あとの a～e の中からそれぞれ一つ選びなさい。

②「弗」 イ

- a いかる
- b なじむ
- c ず
- d なす
- e はらふ

③「從」 ウ

- a より
- b ききいれ
- c なびき
- d したがひ
- e つらなり

3 傍線部④「有不樂之色何也」の書き下し文として最も適切なものを、次の a～e の中から一つ選びなさい。 エ

- a 不樂の色有るは何ぞやと
- b 樂からずの色何のために有るやと
- c 樂からず有り之何の色ぞと
- d 樂まざるの色何のために有るやと
- e 樂まざるの色有るは何ぞやと



4 傍線部⑤「有福不及、禍來連我」とは、どのようなことをたとえた表現か。最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

オ

- a 良いことが結果に結びつかないと、それは悪いことをしたのと同じであることのととえ。
- b 良いことを言っても除け者にされ、悪いことでは巻き添えをくうことのととえ。
- c せっかく良いことをしたのに、それが逆恨みされることのととえ。
- d 努力しても幸運をつかみ取れないと、自然と運気が落ちていくことのととえ。
- e 良いことを日頃積み重ねていれば、悪いことがあっても傷を最小限に抑えられることのととえ。

5 傍線部⑥「則曹其首也」の「首」が表す意味として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

カ

- a 大事にされる
- b 中心となる場所
- c 急所
- d 一番大切な部分
- e 最初に

6 傍線部⑦「子奚不先自貳焉」と述べられている理由として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

キ

- a 後に起こるかもしれない災いを考えたならば、今のうちに先手を打って、その禍に備えておいた方が後々の為になると思うから。
- b 権力に逆らえば今の地位を失うかもしれないので、ここはじつと我慢をしてやり過ぎた方がよいと思うから。
- c 曹君は臣下の本当の忠心を試しているので、その期待に応えるべく、見えないところで秘かに忠義を尽くした方がよいと思うから。
- d 一国の宰相であるならば、国の行く末を考えてよくない施策はやめるよう、主君に進言した方がよいと思うから。
- e どんな身分であれ、自分の将来を考えたならば、滅びそうな国に留まることは我が身の滅亡を意味すると思うから。

7 本文の内容に合致するものとして最も適切なものを、次の a ～ e の中から一つ選びなさい。

ク

- a 曹君は、晉の公子重耳が曹国に亡命したので、食客として遇することにしたが、一方で公子に恥をかかせるような扱いをしたことで臣下からもあきれられた。
- b 釐負羈は晉の公子重耳のただものならざる様子を見て、のちのち自国の災いとならぬよう、今のうちにその種を取り除くべきことを曹君に進言した。
- c 叔瞻も釐負羈とともに曹君の御前にあつて、晉の公子である重耳への扱いを批判し、無礼にならないような振る舞いをすべきだと曹君をたしなめた。
- d 釐負羈の妻は、晉の公子である重耳とその従者の人相から、彼らの将来を占い、今のうちに曹君を諫めるべきであると夫である釐負羈に進言した。
- e 釐負羈は曹君の無礼な振る舞いが気がかりであったため、夜分にこっそり使者を遣わして、黄金や宝玉、食事などを晉の公子である重耳に送った。

特別支援学校の受審者は二九の二六へ進んでください。

## 【選択問題 中学校・高等学校】

第5問 次の1・2の問いに答えなさい。

1 故事成語とその説明として適切でないものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

ア

- a 「性相近く習相遠し」  
 ↓『論語』陽貨編における孔子の言葉から、人の性は生まれたときにはあまり差はないが、長じて異なってくるのは、習慣のためであることを言い表したものだ。  
 「石に漱ぎ流れに枕す」
- b 「石に漱ぎ流れに枕す」  
 ↓晋の孫楚が「石に枕し流れに漱ぐ」と言うべきところを、「石に漱ぎ流れに枕す」と言い誤り、「石に漱ぐ」とは歯を磨くこと、「流れに枕す」とは耳を洗うことと強弁した故事から、こじつけて言いがれること。
- c 「骨を換え胎を奪う」  
 ↓『冷齋夜話』に記されている内容から、骨を取り換え、胎を取って使うというのが原義。詩文を作る際に、古人の作品の趣意は変えず語句だけを換え、または古人の作品の趣意に沿いながら新しいものを加えて表現すること。
- d 「天網恢恢疎にして漏らさず」  
 ↓『老子』中の句に由来がある。天の網は広大で目が粗いようだが、悪人は漏らさずこれを捕まえるという意味から、悪いことをすれば必ず天罰が下るということ。
- e 「洛陽の紙価を高める」  
 ↓『晋書』文苑伝の故事による。晋の左思が「三都賦」を作ったとき、洛陽の人が争ってこれを転写したため、洛陽の紙の値段が高くなった故事から、一人の人間の発言が世の中に大きな影響を与えるということ。

2 次の(1)～(4)の問いに答えなさい。

(1) 次の説明に該当する作品として適切なものを、あとのa～eの中から一つ選びなさい。  
 イ

平安中期に成立した作者未詳の歌物語。和歌を中心とした短編百七十三段から成る。宮廷中心の貴族社会で語られていた歌にまつわる話を集成したものであるが、後半には蘆刈の話、安積山の話、姥捨山の話など、民間伝承による古い説話が入れられ、これらの伝承説話は中世の謡曲や近代文学の素材ともなった。

- a 落窪物語      b 伊勢物語      c 大和物語      d 平中物語  
 e 狭衣物語

- (2) 次の説明に該当する俳人として適切なものを、あとのa～eの中から一つ選びなさい。

ウ

明治後半から大正・昭和前半にかけて活躍した俳人で、松山市に生まれた。郷里の先輩正岡子規の俳句革新運動に力を注ぎ、子規より後継者として求められたが、束縛を嫌い辞退した。「花鳥諷詠」を理念とする俳句観を確立し、客観写生を重んずるホトトギス派の重鎮として有名である。

- a 水原秋桜子      b 高浜虚子      c 尾崎放哉      d 飯田蛇笏  
e 河東碧梧桐

- (3) 近世時代の文学の流れに関する説明として誤っているものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

エ

- a 近世前期の文化は上方を中心としたものであり、初めは京都を中心とし、後に商業都市大阪が成長した。元禄年間に活躍した井原西鶴は、『日本永代蔵』や『世間胸算用』のほか、『曾根崎心中』などの有名作を著した。
- b 元禄文化を代表する俳人の松尾芭蕉は、貞門俳諧のうちこんだのち、『野ざらし紀行』の旅に出て蕉風俳諧のきっかけをつかんだ。紀行文『奥の細道』は「風雅」の世界を展開しようという意図から、虚構も交えた文学作品となっている。
- c 近世後期の文化は江戸を中心としたものであり、特に文化・文政期にその最盛期を迎える。江戸時代の読本作者の上田秋成は、日本や中国の古典に題材を取った怪異的な小説『雨月物語』を刊行し、晩年に『春雨物語』を著した。
- d 江戸後期の読本作者として有名な滝沢馬琴は、勧善懲悪の理念に貫かれた長編小説を発表し、南房総の里見家再興に活躍した八犬士の物語『南総里見八犬伝』、史実と伝説とが巧みに構成された『椿説弓張月』などを著した。
- e 文化・文政期の俳人小林一茶は、方言・俗語を用いた生活感のある俳風を得意とし、「目出度すみかも中位なりおらが春」の冒頭で有名な句集『おらが春』のほか、「これがまあつひの栖すみかか雪五尺」などの句で生活感情を率直に表現した。

(4) 昭和後期の文学の流れに関する説明として誤っているものを、次の a～e の中から一つ選びなさい。

オ

- a 第二次世界大戦が終わり、それまでの言論統制から解放されると、既成の作家がそれまで書き溜めていた作品を続々と発表し始めた。谷崎潤一郎は長編小説『細雪』を発表し、大阪の富裕な商家の四姉妹の生き方を描いた。
- b 混乱した世相のもとで、無頼派と呼ばれた作家たちも活躍を始めた。坂口安吾は短編小説『白痴』を著した。太宰治は『斜陽』を著し、戦後の没落貴族を題材に「美しく滅びてゆくもの」と「生まれてくる新しいもの」を描こうとした。
- c 戦前・戦中以来の作家とは別に、自らの戦争体験に深く根差し、人間と社会を根元的に見つめようとする第一次戦後派と呼ばれた一群の作家たちが登場した。大岡昇平は『俘虜記』を発表し、極限の中での人間の心理や行動を描いた。
- d 昭和二十年代の後半になると、第三の新人と呼ばれる若い世代が登場し、日常的な感覚にたった作品を発表し始めた。安岡章太郎は『陰気な愉しみ』『悪い仲間』、遠藤周作は中国を舞台にした長編小説『敦煌』を発表した。
- e 昭和三十年代には、石原慎太郎や北杜夫、開高健、大江健三郎らが登場した。大江は、『芽むしり仔撃ち』や『個人的な体験』を発表した。大江は詩的想像力による独自の世界と時代に向けた発言が認められ、ノーベル文学賞を受賞した。

## 【選択問題】 中学校

第6問 次の1・2の問いに答えなさい。

1 次の(1)と(2)は、平成二十九年三月告示の中学校学習指導要領国語における「第2 各学年の目標及び内容」の第2学年及び第3学年の「1 目標」に示されている事柄である。  
 ア・イ に該当するものを、あとのa～eの中からそれぞれ一つ選びなさい。

(1) 言葉がもつ価値を認識するとともに、ア、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。(第2学年)

- a 進んで読書をし
- b 読書を通して自己を向上させ
- c 読書の意義と効用について理解し
- d 幅広く読書に親しみ
- e 読書を生活に役立て

(2) イ 深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(第3学年)

- a 情報を整理して考える力や
- b 論理的に考える力や
- c 多面的・多角的に考える力や
- d 順序立てて考える力や
- e 筋道立てて考える力や

2 次の(1)～(3)は、『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』(平成29年7月)に示されている「内容」に関する問題である。それぞれの問いに答えなさい。

(1) 次の文章は、第3学年の内容 1 「知識及び技能」(3) 我が国の言語文化に関する事項「伝統的な言語文化」に関する解説の一部である。文章中の ウ に該当するものを、あとのa～eの中から一つ選びなさい。

古典作品には、その背景となる歴史的な状況が存在する。それを踏まえた上で古典を読むことで、作品の世界をより深く、広く理解することが可能になる。また、ウ ことで、作品の世界をより実感的、具体的に捉えることもできる。

- a 古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える
- b 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解する
- c 舞台となっている時代の様子や作者が置かれていた状況などを知る
- d 当時の人々のものの見方や感じ方、考え方に触れる
- e 現代語訳や語注などを手掛かりにしながらか典を読む

(2) 次の文章は、第2学年の内容 2 「思考力、判断力、表現力等」B 書くことの「共有」に関する解説の一部である。文章中の エ に該当するものを、あとのa～eの中から一つ選びなさい。

全学年を通して、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことを示している。第2学年では、特に、表現の工夫とその効果などの観点からよい点や改善点を見いだすことを求めている。

具体的には、エ などについて検討することが考えられる。また、どのように改善するとよいかなど、次の自分の書く活動へ生かす具体的な視点を得ることも重要である。

- a 生徒同士で互いの文章を読み合い、目的や意図に応じた表現になっているか、分かりやすい叙述になっているか
- b 書き手が目的と意図に応じてどのような表現の工夫をし、それほどのような効果があったか
- c 書いた目的や意図に照らして、伝えていることに対して読み手は納得したか、首尾一貫した矛盾のない文章になっているか
- d 書き手が目的や意図に応じてどのように題材を決めているか、さらには、多様な方法で集めた材料を整理できているか
- e 読み手として想定していた人に読んでもらい、どのような表現の効果が認められるか、そしてそれは適切であるか

- (3) 次の文章は、第1学年の内容 2 「思考力、判断力、表現力等」C 読むことの「精査・解釈」に関する解説の一部である。文章中の  才  に該当するものを、あとのa～eの中から一つ選びなさい。

文学的な文章において、場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈することを求めている。文学的な文章を読み味わう際には、個々の場面や描写から直接分かることを把握するだけでなく、複数の場面を相互に結び付けたり、各場面と登場人物の心情や行動、情景等の描写とを結び付けたりすることによって、 才  ことが重要である。

- a 自分の考えを広げたり深めたりする
- b 書き手の表現の仕方について評価する
- c 文章に表れているものの見方や考え方を捉える
- d 場面や描写に新たな意味付けを行う
- e 登場人物の行動や物語の展開の意味を考える



## 【選択問題 高等学校】

第6問 次の1・2の問いに答えなさい。

1 次の(1)～(3)は、平成三十年三月告示の高等学校学習指導要領国語における「第2款 各科目」に示されている事柄である。 ア ウ に該当するものを、あとのa～eの中からそれぞれ一つ選びなさい。ただし、(1)は「現代の国語」の「1 目標」、(2)は「言語文化」の「2 内容」、(3)は「文学国語」の「3 内容の取扱い」に示されている事柄である。

(1) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、 ア を養う。

- a 世界的視野に立つて国際社会に貢献しようとする態度
- b 言語活動の中で、課題を自ら設定して探究しようとする態度
- c 社会人として、考えやものの見方を豊かにしようとする態度
- d 国語を尊重してその能力の向上を図ろうとする態度
- e 言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度

(2) 時間の経過や イ などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解すること。

- a 地域の文化的特徴
- b 言語文化全体の独自性
- c 我が国の言語文化の特質
- d 歴史的・文化的背景
- e 古典特有の表現

(3) 内容の「思考力、判断力、表現力等」における授業時数については、次の事項に配慮するものとする。

ア 「A書くこと」に関する指導については、30～40単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。

イ 「B読むこと」に関する指導については、 ウ 単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。

e	d	c	b	a
130	100	70	50	20
} / }	} / }	} / }	} / }	} / }
140	110	80	60	30

2 次の(1)と(2)は、『高等学校学習指導要領(平成30年告示) 解説 国語編』(平成30年7月)における「第1章 総説」の「第4節 国語科の内容」と「第2章 国語科の各科目」の「第1節 現代の国語」に関する問題である。それぞれの問いに答えなさい。

(1) 次の文は、「2 「知識及び技能」の内容」(3)我が国の言語文化に関する事項の「読書」に関する解説の一部である。文中の  に該当するものを、あとのa～eの中から一つ選びなさい。

「現代の国語」では、実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用、「言語文化」では、我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用、「論理国語」では、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用、「文学国語」では、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用、「国語表現」では、自分の思いや考えを伝える際の言語表現を豊かにする読書の意義と効用、「古典探究」では、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、 について理解を深めることを示している。

- a 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用
- b 古典を翻案した近現代の物語や小説などを読むことの意義と効用
- c 自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用
- d 読書を通して新しい知識を得たり、自分の考えを広げたりすることの意義と効用
- e 自分自身の言語表現を豊かにする読書の意義と効用

- (2) 次の文は、「3 内容（思考力、判断力、表現力等）」の「C 読むこと」の「精査・解釈、考えの形成、共有」に関する解説の一部である。文中の□に該当するものを、あとのa～eの中から一つ選びなさい。

現代の社会生活で必要な論理的な文章や実用的な文章は、具体的な目的や働きと  
 いった明確な役割を担っている。この点は、「言語文化」で扱うような、社会的に高  
 い評価を受け、文化的な価値を蓄積してきた評論や小説等とは異なっている。具体  
 な社会生活の場面の中でこれらの文章を読む際には、□。これらの文章の文  
 脈を意識した読む資質・能力の育成が、これからの時代には求められる。

- a 書き手の考え方や生き方を追体験したり対象化したりすることにより、文章の深  
 い意味付けも可能となる
- b 何らかの目的に応じて文章の内容が解釈され、読み手の判断や行動が促されてい  
 く
- c 既存の知識や経験が相対化され、それまでとは異なる価値をもつものとして、新  
 たに意味付けられていく
- d それぞれの目的に応じて文章や図表などに含まれている情報が相互に関係付けら  
 れ、書き手の意図が解釈されるようになる
- e 読み手の目的に応じて、既存の知識や経験を踏まえて読むという行動が促されて  
 いく

【選択問題 特別支援学校】

第6問 次の1～4の問いに答えなさい。

1 次の表は、令和4年12月13日に文部科学省により示された「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」に関するものである。

(1) 小学校・中学校の「学習面又は行動面で著しい困難を示す」児童生徒の割合として、に当てはまる正しい数値を、下のa～eから一つ選びなさい。

<小学校・中学校>

	推定値
学習面又は行動面で著しい困難を示す	<input type="text" value="ア"/> %

a 4.6    b 6.5    c 7.3    d 8.8    e 10.3

(2) 学校種別ごとの「学習面又は行動面で著しい困難を示す」児童生徒の割合として、～に当てはまる正しい数値を、下のa～eから一つ選びなさい。

	推定値			
	学習面又は行動面で著しい困難を示す	A	B	C
小学校	<input type="text" value="イ"/> %	7.8%	4.7%	2.0%
中学校	<input type="text" value="ウ"/> %	3.7%	2.6%	1.1%
高等学校	<input type="text" value="エ"/> %	1.3%	1.0%	0.5%

※A：「学習面で著しい困難を示す」、B：「不注意」又は「多動性-衝動性」の問題を著しく示す、C：「対人関係やこだわり等」の問題を著しく示す」

a 0.9    b 2.2    c 5.6    d 8.2    e 10.4

- 2 次の文は、令和5年3月に文部科学省より示された「通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援に係る方策について（通知）」の一部である。文中の  ～  に当てはまる語句を、下の a～d からそれぞれ一つ選びなさい。

この度、文部科学省の下に設置された「通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の在り方に関する検討会議」において、令和5年3月13日に報告が取りまとめられました。

(中略)

具体的には、

- ・校長のリーダーシップの下、特別な教育的支援を必要とする児童生徒の適切に把握し、適切な指導や必要な支援を組織的に行うための  を充実させること
  - ・児童生徒が慣れた環境で安心して通級による指導を受けられるように  や巡回指導をはじめとする通級による指導を充実させること
  - ・通級による指導を担当する教師等の専門性の向上を図ること
  - ・高等学校における通級による指導の実施体制を充実させること
  - ・特別支援教育に関する専門的な知見や経験等を有する特別支援学校における小中高等学校等への指導助言等の  を充実させること
  - ・よりインクルーシブで多様な教育的ニーズに柔軟に対応するため、特別支援学校を含めた2校以上の学校を一体的に運営するインクルーシブな学校運営モデルを創設すること
- などについて提言されています。

- |                                |   |         |   |               |
|--------------------------------|---|---------|---|---------------|
| <input type="text" value="オ"/> | a | 多様な学びの場 | b | カリキュラム・マネジメント |
|                                | c | 学校運営協議会 | d | 校内支援体制        |

- |                                |   |         |   |      |
|--------------------------------|---|---------|---|------|
| <input type="text" value="カ"/> | a | グループ別指導 | b | 自校通級 |
|                                | c | 他校通級    | d | 個別指導 |

- |                                |   |           |   |         |
|--------------------------------|---|-----------|---|---------|
| <input type="text" value="キ"/> | a | カウンセリング機能 | b | 一貫した支援  |
|                                | c | 継続的な支援    | d | センター的機能 |

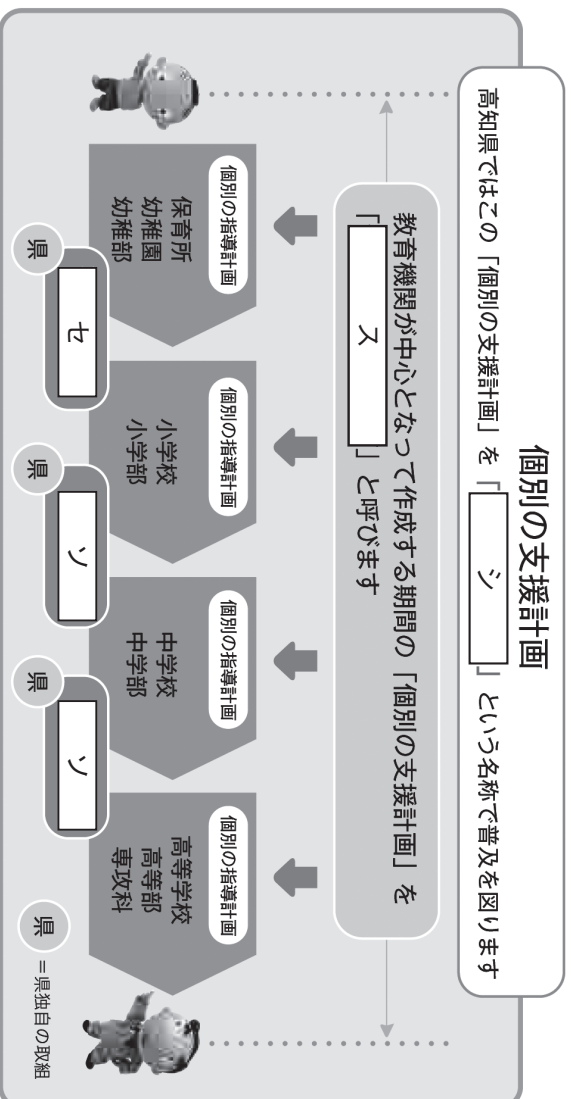
- 3 次の文は、特別支援学校学習指導要領解説（平成30年3月）各教科等編（小学部・中学部）第4章 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科 第2節 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校における指導の特徴について 3 指導の形態についての記述の一部である。文中の  ～  に該当する語句を、下のa～dからそれぞれ一つ選びなさい。

知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校においては、児童生徒の学校での生活を基盤として、 の流れに即して学んでいくことが効果的であることから、従前から、日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習などとして実践されてきており、それらは「各教科等を合わせた指導」と呼ばれている。各教科等を合わせて指導を行うことに係る法的な根拠は、 第130条第2項に、特別支援学校において「知的障害者である児童若しくは生徒又は複数の種類の障害を併せ有する児童若しくは生徒を教育する場合において特に必要があるときは、各教科、道徳科、、特別活動及び自立活動の について、合わせて授業を行うことができる」とされていることである。

- |                                |             |          |             |
|--------------------------------|-------------|----------|-------------|
| <input type="text" value="ク"/> | a 発達や指導     | b 興味や関心  | c 学習や生活     |
|                                | d 指導計画や内容   |          |             |
| <input type="text" value="ケ"/> | a 教育基本法     | b 地方公務員法 | c 学校教育法施行令  |
|                                | d 学校教育法施行規則 |          |             |
| <input type="text" value="コ"/> | a 外国語活動     | b 学級活動   | c 総合的な学習の時間 |
|                                | d 総合的な探究の時間 |          |             |
| <input type="text" value="サ"/> | a 全部又は一部    | b 全部     | c 一部        |
|                                | d 特に示す部分    |          |             |

4 高知県教育委員会で作成した「高知県の特別支援教育 すべての子どもが輝くために」では、特別な支援を必要とする子どもたちへの切れ目のない支援を実現する仕組みとして次の図を示している。

図中の  ～  に当てはまる語句を、下の1～7から一つずつ選びなさい。



- 1 個別の教育支援計画
- 2 個別の移行支援計画
- 3 アセスメントシート
- 4 つながるノート
- 5 就学時引き継ぎシート
- 6 キャリア・パスポート
- 7 支援引き継ぎシート





